



青花龍文高足杯 元時代14世紀
(中国陶磁名品展より)



大樋年朗 飴釉金龍壺「足跡・MY WAY」
(第43回日展金沢展より)

幻のコレクション

中国陶磁名品展 —イセコレクションの至宝—

- 唐物への憧れ
- 前田家の調度—唐物を中心に—
- 没後50年 吉田三郎展

会期：4月22日(日)～5月13日(日)会期中無休

第43回日展金沢展

会期：5月19日(土)～6月10日(日)会期中無休

- 漆の美—加賀蒔絵を中心に—
- 百万石大名の装い—甲冑・陣羽織—

会期：5月17日(木)～6月10日(日)会期中無休

中国陶磁名品展

—イセコレクションの至宝—

主催／石川県立美術館、イセ文化財団

後援／北國新聞社、朝日新聞社、中華人民共和国駐日本国大使館

4月22日(日)～5月13日(日) 会期中無休

学芸員の眼

八千年にわたると言われる中国陶磁の歴史の中では、民族の融合や統治機構の变革が度々起こっています。それゆえ中国陶磁と一口に言っても、そこには複合的な文化背景が幾層にも折り重なっています。

そこで改めてこれまでの中国陶磁の展覧会を振り返ると、そのほとんどが日本人の美意識によって選択された作品を展示したものであったことを確認することができます。従って今回の展覧会は、中国陶磁の展示を通して日本人の美意識を再認識する非常に興味深い機会と言うことができます。この点については、五月十二日の土曜講座で詳しくお話ししたいと考えております。

前号の「美術館だより」で本展に展示される作品のごく一部をカラー写真で紹介したところ、全国から予想以上の大きな反響をいただきました。寄せられたご意見のほとんどが、「まさに幻のコレクションだ」というもので、本展に対する期待が早くも盛り上がっていることを感じます。本展は、ゴールデン・ウィーク期間に開催されることから、展覧会の鑑賞を兼ねて、この機会に石川県をじっくり鑑賞したいとおっしゃる方も大勢いらっしゃると思います。石川県には魅力的な観光スポットが数多くありますから、思い出に残るご旅行となることでしょう。

出品リストにつきましては、展覧会が始まりましたらホームページで公開します。今回は、出品点数一二点の大まかな年代構成をお知らせします。まず紀元前の作品として新石器時代(紀元前四五〇〇年)から前漢時代(紀元前三世紀～一世紀)までのものが九

点。続いて紀元後、後漢(一～三世紀)から唐時代(七～八世紀)のものが十四点。北宋(十一～十二世紀)から元時代(十四世紀)までのものが二十三点。中心となる明時代(十五～十七世紀)のものが四七点。清時代(十七～十九世紀)のものが二十七点として参考出品として明時代の「堆朱筆筒」一点が展示されます。いずれも、時代を代表する水準の作品ですので、どうぞご期待ください。

■観覧料 () は20名以上の団体料金

一 般	一、〇〇〇円 (八〇〇円)
大 学 生	六〇〇円 (五〇〇円)
高・中・小生	三〇〇円 (二〇〇円)

四月二十三日(月)は記念式典を開催しますので、正午～午後四時まで一般の方の観覧を制限させていただきます。



白陶器 新石器時代
B.C.4500～B.C.2500



三彩壺 唐7～8世紀



黄地青花桃樹文盤
清・乾隆在銘 (1736～95)

唐物への憧れ

4月22日(日)～5月13日(日) 会期中無休

今回の展示では、明時代の絵画、陶芸、漆芸作品が大きな割合を占めます。日本に明時代の文物が数多く伝来しているのは、まず室町時代から江戸時代にかけての盛んな交易によるものと考えられます。さらに、続く清時代との対比から、明時代の美術工芸品に対する強い憧れも、明治から昭和の時代にかけての日本の収集家にはあったことでしょう。

今回展示される作品の中で特に注目したいものとして、まず絵画では石川県指定文化財の「明画十六羅漢図」（總持寺祖院蔵）が挙げられます。日本で描かれる羅漢図の一つの

原型ともいえる李龍眠様式によるもので、今回は十六幅のうち二幅のみの公開となります。続いて漆芸では同じく石川県指定文化財の「梅竹双鳥図存星盆」（個人蔵）が挙げられます。東京国立博物館が所蔵する重要文化財「古九谷 色絵叭々鳥図平鉢」の意匠との関連が指摘されている作品で、平成二十二年の特別展「加越能の美術」では両者を並べた展示が全国的に大きな話題となったことも記憶に新しいところです。



県文 梅竹双鳥図存星盆
明15～16世紀 個人蔵

前田家の調度
—唐物を中心に—

4月22日(日)～5月13日(日) 会期中無休

前田家に伝来した調度品のなかから、漆芸品や陶磁器類を主に、大名家の格式を示す唐物を中心とした作品三十七点を展示しています。日本美術のルーツともいえる唐物の美の世界をご鑑賞ください。次に展示品を紹介します。

青磁二重鉢

この器は食物保温器として使用するために二重の形体となっていますが、箱書には、下の器は石苜鉢にも用いると記されています。青磁は青い釉薬のかかった高火度焼成のやきもので、釉薬は雑木の灰を成分とし、そこに含まれるわずかの鉄分が還元して青磁といわ

れる魅力的な「青い色」を呈します。焼成温度の微妙な変化で、青磁の色は、水色から黄緑色までその色は大変幅広いものです。

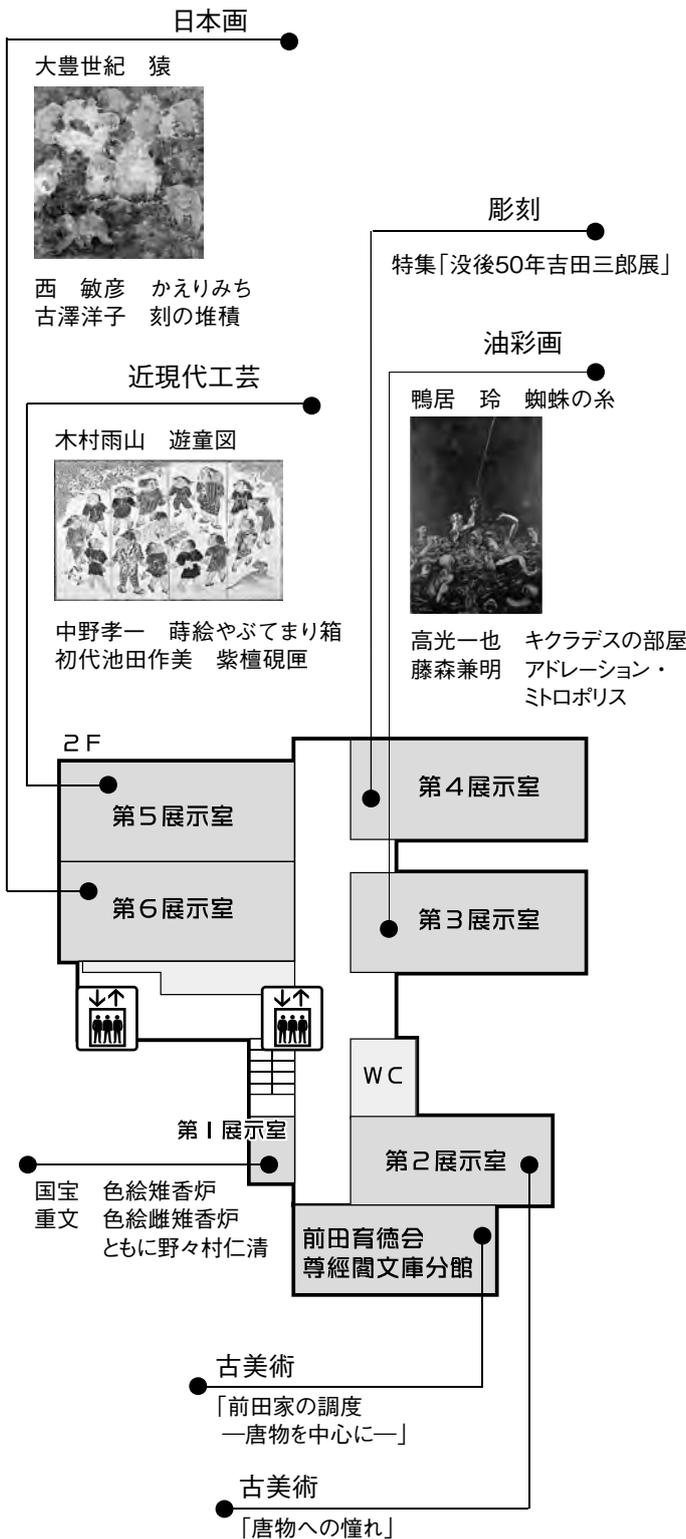
花鳥図 王若水筆

三幅対の中幅に松竹梅と番の丹頂鶴を描き、左右幅にはそれぞれ春秋の季節を表す牡丹に禽鳥、菊に禽鳥が、確かな筆致と鮮やかな彩色で描かれています。花鳥画が意味する不老長寿や夫婦和合、子孫繁栄を象徴的に表現した吉祥図として、大名家の書院飾りにふさわしい大幅です。作者は中国元時代の画家で、花鳥画を得意としました。

青磁二重鉢

主な展示作品

4月22日(日)～5月13日(日) 会期中無休



没後50年 吉田三郎展

4月22日(日)～5月13日(日) 会期中無休

没後五十年を迎えます彫刻家吉田三郎（明治二十二年～昭和三十七年・一八八九～一九六二）の回顧展のご案内・その二で、本号では作者の制作にあたっての眼差しの変化を眺めます。

吉田三郎の展覧会作品は生涯に亘って筋骨逞しい男性像、特に中高年像が多く見え、作品では確かな技巧に目が奪われがちになりながらも、ブレのない人体彫刻の中心となる量塊の把握とその上に纏った筋肉組成の調和が発揮した存在感の強い作品群であるといえましょう。

作家の前半期にみる甘さを払拭し労働と人生の痕跡を人体を通して表した作品群は、同じく労働者像を制作テーマにしたベルギーの彫刻家ムーニエの作品と比較されますが、やがて中年以降、量

塊の充実とともにフォルムを意識した作品作りをテーマに加え群像制作にも取り掛かります。代表作「山羊を飼う老人」に見るように幾何学的な構成の中での連動的な視線の動きが奏効し、全体の中で効果的な各部分の位置付けを図る制作スタイルであったといえます。後年になって単独の男性像制作が中心となる作家は、「波」に見るように空間を意識した制作に発展し、人体彫刻の延長でありながらも細部を省略し斬新なフォルムにまとも量塊を空間上に効果的に配置するスタイルに発展していきました。吉田三郎の眼差しは生涯、発展を続け写実彫刻の可能性を拓いた歩みであったといえましょう。



吉田三郎 山羊を飼う老人 昭和18年

第43回 日展金沢展

5月19日(土)～6月10日(日) 会期中無休

主催／北國新聞社、社団法人日展、日展石川会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、財団法人石川県芸術文化協会、財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、金沢ケーブルテレビネット



村田省蔵 芽吹き

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、その時々の改革を重ねながら、常にわが国美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、昭和四十四年の改組から数えて四十三回目の展覧会となります。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、文部科学大臣賞、内閣総理大臣賞、日展会員賞(石川県関係では日本画で中町力)、特選(石川県関係では日本画で松永敏、彫刻で東誠、工芸美術で高名光夫、山元健司)などの受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、約四百点を展示します。

◆主な出品作家(五十音順・敬称略)

〈日本画〉

岩倉 寿、川崎春彦、鈴木竹柏、滝川真人
土屋禮一、百々俊雅、中路融人、福田千恵

〈洋画〉

円地信二、庄司栄吉、寺坂公雄、中山忠彦
塗師祥一郎、平松 讓、藤森兼明、村田省蔵

〈彫刻〉

雨宮敬子、石田康夫、川崎普照、得能節朗
中村晋也、野島耕之介、橋本堅太郎、山本眞輔

〈工芸美術〉

伊藤裕司、今井政之、大樋長左衛門、奥田小由女
武腰敏昭、中井貞次、三谷吾一、森野泰明

〈書〉

池田桂鳳、今井凌雪、榎倉香邨、尾崎邑鵬
杉岡華邨、高木聖鳳、日比野光鳳、古谷蒼韻

◆作品解説日程

6/8	6/6	6/4	6/1	5/30	5/28	5/25	5/23	5/21	月日					
金	水	月	金	水	月	金	水	月	曜日					
日本画	彫刻	書	洋画	彫刻	工芸	洋画	工芸	日本画	10:30 ～ 12:00					
金子中町 絵理力 彫刻	村井良樹 工芸	江藤望 日本画	三藤観映 日本画	長谷川清 彫刻	江守マリ子 望 工芸	石田陽介 望 工芸	木谷陽子 陽子 日本画	武腰敏昭 敏昭 日本画	荒木幸子 幸子 彫刻	政木良一 良一 彫刻	山元健司 健司 書	武腰一憲 一憲 書	柳橋孝志 孝志 洋画	13:00 ～ 14:30
谷村俊英 工芸	野島耕之介 洋画	高名光夫 光夫 洋画	佐藤俊介 俊介 洋画	仁志出龍司 龍司 洋画	野島耕之介 耕之介 工芸	山瀬晋吾 晋吾 日本画	小西啓介 啓介 日本画	西出茂弘 茂弘 洋画	瀧川真人 真人 洋画	瀧川眞人 眞人 洋画	山瀬晋吾 晋吾 工芸	谷村俊英 俊英 工芸	高廣幸悠 幸悠 日本画	14:30 ～ 16:00
角康二	干田浩	太佐寿一郎 寿一郎 洋画	阿戸猛子 猛子 洋画	西房浩二 浩二 洋画	鶴見保次 保次 洋画	原千紗 千紗 洋画	戸田博子 博子 洋画	早崎和代 和代 洋画	曾我章 章 洋画	石田巳代治 巳代治 洋画	大樋長左衛門 長左衛門 洋画	松永敏 敏 洋画	古澤洋子 洋子 洋画	村井良樹 良樹 洋画

◆観覧料

小学生	中学生	一般	当日	前売り	団体
四〇〇円	七〇〇円	一、〇〇〇円	九〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
三〇〇円	三〇〇円	九〇〇円	八〇〇円	三〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

【展覧会事務局】

〒九二〇―八五八八 金沢市南町二番一号
北國新聞社事業局内
第四十三回日展金沢展事務局
電話〇七六―二六〇―三五八一



東 誠 風 (特選)



松永 敏 登校指導 (特選)



武腰敏昭 無鉛黄金赤釉「王鳥」



三谷吾一 月明かり

漆の美 —加賀蒔絵を中心に—

5月17日(木)～6月10日(日) 会期中無休

百万石大名の装い —甲冑・陣羽織—

5月17日(木)～6月10日(日) 会期中無休
6月14日(木)～7月16日(月・祝) 会期中無休

陶磁器がチャイナと呼ばれるのに対して漆器はジャパンと呼ばれるように、漆器はすでに縄文時代から日本の文化と密接に結びついています。その背景には、日本の気候風土が漆の生育や樹液の加工に好適だったことと、豊富な木材が容易に入手できたことが挙げられます。今回の特集は「加賀蒔絵」の視点を軸に、室町時代から江戸時代までの優品を展示します。

加賀蒔絵は、加賀の地で制作された蒔絵で、室町時代にはすでに高い水準にあったことが、現存する作品から確認されます。そして江戸時代にはいると、加賀藩主前田家の文化政策により大きく発展しました。

「金沢百万石まつり」は、加賀藩祖・前田利家が賤ヶ岳の戦いの後、天正十一年四月二十八日（新暦六月十四日）に尾山城（金沢城）に入城し、金沢の礎を築いた偉業をしのんで毎年開催されていますが、その時期に合わせて、前田育徳会が所蔵する藩主代々の甲冑や陣羽織を公開する恒例の展覧会です。

前田育徳会には、江戸後期に記された「加賀藩主甲冑并藩軍装図録」（五帖）が所蔵されています。これは、歴代藩主の甲冑や陣羽織をはじめ、藩や藩臣の旗・馬印などの絵図が注記とともに収録されています。昨年は初代藩主利家から四代光高まで

の「軍装図録」を公開しましたが、今回は、五代綱紀から八代重熙までの「軍装図録」を公開します。

なかでも五代綱紀の「軍装図録」は単独で一帖に仕立てられています。綱紀が命名した「百工比照」（工芸の諸分野の製品や技法を比較対照することを意図して、工芸の標本を集大成したもの）にも、他の大名家の陣羽織の絵図が収集されていますが、大名としての格式や威厳を、視覚的に表現された装いから綱紀の想いや美意識を概観いただけると思います。そのほか、六代吉徳から十一代治脩までの甲冑と陣羽織に、鏡をあわせて展示します。

特に三代藩主前田利常から五代藩主前田綱紀にかけての時代は、名工の招聘と材質・技法の追求により、全国に誇る芸術性の高い作品が数多く制作されました。

今回の特集では、江戸時代十七世紀の加賀蒔絵を代表する名工である清水九兵衛と五十嵐道甫をはじめ、その後継者たちの「美の饗宴」をお楽しみいただきたいと思います。



蒔絵十二支図硯箱
五十嵐不尽作 江戸17世紀



鱗形に松皮菱文陣羽織
五代前田綱紀所用

行事予定

■土曜講座 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料 5月12日(土) 「中国陶磁と日本の美意識」 村瀬博春 担当課長 5月26日(土) 「ワグネル博士クロニクル」 北澤 寛 学芸専門員 ～美術・文化を中心に～	
■ギャラリートーク 企画展「中国陶磁名品展」会期中の毎週日曜日 4月22日、29日、5月6日は午前11時より、5月13日は午後2時より開催します。	

第10回美術館バスツアー

南砺・砺波の文化財・美術館を訪ねて

期 日 / 平成二十四年 五月二十七日(日)

集合時間 / 午前七時五〇分
 集合場所 / 金沢駅西口

会 員 六、四〇〇円
 会員外 六、六〇〇円
 募集定員 四十四名

【見学地】

瑞泉寺 / 南砺市井波

寺宝の特別拝観あり

光徳寺 / 南砺市法林寺

棟方志功ゆかりの寺

福光美術館 / 南砺市法林寺

特別展「棟方志功展」

棟方志功記念館愛染苑 / 南砺市栄町

棟方志功が福光で疎開生活をしてきた間に制作した作品を中心に展示

砺波市美術館 / 砺波市高道

特別展「梅原龍三郎展」

【申込み方法】

① 往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募下さい。応募者多数の場合は抽選になります。

② 返信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、会員番号(友の会会員のみ)をお書き下さい。

③ 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書き下さい。③ 返信はがきの裏面には何も書かないで下さい。

◇応募先

〒九二〇一〇九六三

金沢市出羽町二一

石川県立美術館バスツアー係

応募締切り / 五月八日(火)必着

※応募者一名につき、往復はがき一通でご応募下さい。一人

で何通も出されたものや、連

名のもの、記載事項が不備な

ものなどは無効となります。

平成二十四年度の土曜講座

当館学芸員が、それぞれテーマを設けて行う土曜講座。本年度も五月十二日を皮切りに計二十四回の講座を予定しています。今回は七月までの前期分を紹介します。

回	月日	内容(予定)	担当学芸員
第1回	5月12日	中国陶磁と日本の美意識	村瀬博春
第2回	5月26日	ワグネル博士クロニクル ～美術・文化を中心に～	北澤 寛
第3回	6月16日	長谷川信春から長谷川等伯へ	村瀬博春
第4回	6月23日	前田家の美意識 ―大名の装い― 染める絵画	高嶋 清栄
第5回	6月30日	成竹登茂男と堀友三郎	寺川 和子
第6回	7月7日	石川県の陶芸	南 俊英
第7回	7月14日	須田国太郎と石川	二木伸一郎
第8回	7月21日	平安の美 截金 人間国宝 西出大三の求めたもの	寺川 和子

■ビデオ鑑賞会 午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料 4月29日(日) 幻の天目茶碗 建窯(31分) 白の美・多彩の美 徳化窯・鈞窯(32分) 5月6日(日) おおらかなぬくもり 磁州窯・じ博窯(32分) 用の美を極める 宜興窯(31分) 5月20日(日) 限りなき挑戦 ピカソ / レオナルド・ダ・ヴィンチ(30分) 生命の賛歌 ルノワール / 棟方志功(30分) 5月27日(日) 人間像に迫る ロダン / シーガル(30分) 「在ること」への問いかけ セザンヌ / ジャコメッティ(30分)	
---	--

勝本富士雄 かつもとふじお 大正15年(1926)～昭和59年(1984)



石川県七尾市に生まれた作者は、自由美術協会を経てモダンアート協会の設立に参加し、同会の重鎮として活躍しました。一貫して抽象画を描き続け、原色の絵具のたらしこみや、激しいタッチを見せる表現主義的な抽象を経て、この作品に見られるようなクールで幾何学的抽象、鋭角の雲シリーズや「ライジングサンシリーズ」に至りました。また絵画のみならず、金属に穴や刻みを入れて紙にプレスした凹凸の激しい版画や、色ガラスの小片による巨大なモザイク壁画を県内外の公共建築に残すなど、多彩な創作活動を見せた石川を代表する抽象作家です。

本作は「鋭角の雲」と「ライジングサン」の二つの連作が合わさった、作者の代表作といえる大作です。菱形と丸とが交差する中を薄い青灰色の色面で描き分け、ところどころに赤や黄、緑、青、茶などの色を配した画面は、山にたなびく雲の間に間に陽光がきらめく様を、そして、さわやかなあけぼのを連想させます。かつて、飛行機の中からみた雲海のきらめきが、鋭角シリーズを生むきっかけとなったのでした。シャープな線の組み合わせですが、片ほかに塗り分けられた彩色が柔らかな雲を巧みに表現しています。

作者は大正十五年一月十日七尾市に生まれ、戦前に京都に出て京都市立絵画専門学校に学び、須田国太郎に師事しました。昭和二十五年荒井龍男らのモダンアート協会設立に参加、翌二十六年には会員に推挙され、その後、国立近代美術館で開かれた「抽象と幻想展」、「日米抽象美術展」など、内外の展覧会に招待されるなど、具象画家が多い本県出身者にとって、抽象のパイオニア的存在として活躍しました。

※五月十三日(日)まで第三展示室にて展示します。

次回の展覧会

6月14日(木)～7月16日(月・祝)
会期中無休

第2展示室	長谷川等伯とその周辺
第5展示室	染める絵画 —成竹登茂男・堀友三郎—
第6展示室	今様絵合 —近現代日本画に遊ぶ—

国際博物館の日

国際博物館会議 (ICOM) により、毎年5月18日は「国際博物館の日」を提唱されています。今年の世界共通テーマは「変容する世界と博物館」です。

当館では当日の5月18日(金)はコレクション展示室(第1・2展示室、前田育徳会尊経閣文庫分館)の入場を無料とします。

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 350円 (280円)

大学生 280円 (220円)

高校生以下 無料

※()は20名以上の団体料金
毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日

5月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

5月の休館日は
14日(月)～16日(水)

広告



明治10年8月、加賀藩 前田家の出資により創業。

金沢支店 〒920-8686 金沢市南町5-28 TEL.076-263-5131

www.hokugin.co.jp

お客さまの「うれしい」を、私たちの「うれしい」に。北陸銀行

石川県立美術館だより
第343号(毎月発行)
2012年5月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/